

# 新型コロナウイルスの流行による少子化への影響

財務総合政策研究所 総務研究部 笹間美桜

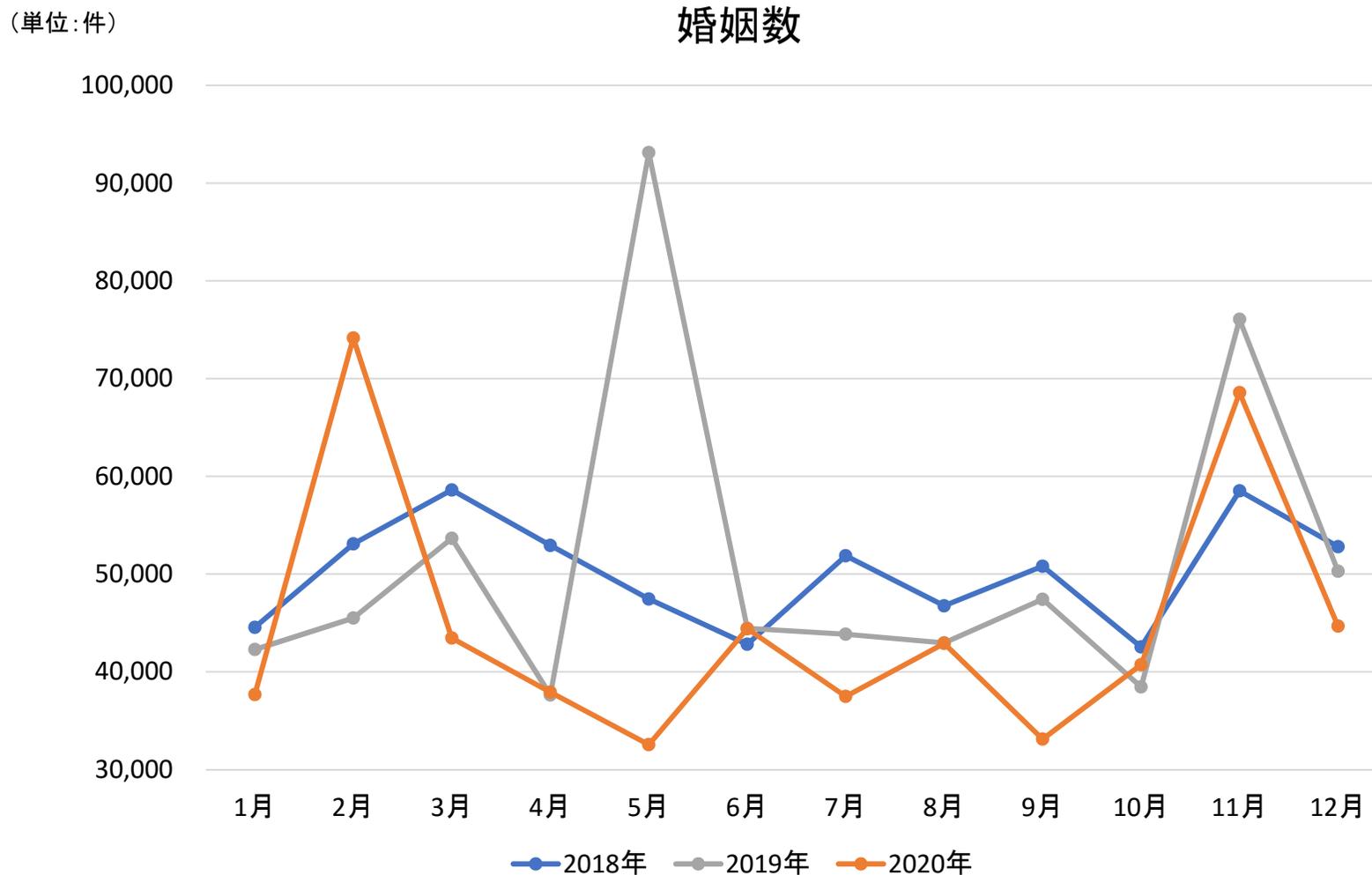
2021年3月23日

- 昨今世界中で新型コロナウイルスが流行していることから、日本およびその他先進国においてどのような影響があるかを実際のデータと意識調査を踏まえて確認する。
- 日本では、結婚してから出産するのが一般的であることを踏まえ、「出会い」「結婚」「出産」の3局面において新型コロナウイルスの流行がどのような影響を与えているかを確認する。
- 新型コロナウイルスの流行は過去の経済危機と比較して、人との接触が減るという特徴がある。これが少子化にどう影響を与えているかを合わせて確認する。

# 日本における婚姻数の変化



✓ 2020年の婚姻数は約54万件で2019年と比較して1割以上減少し、統計開始以来最低となっている。

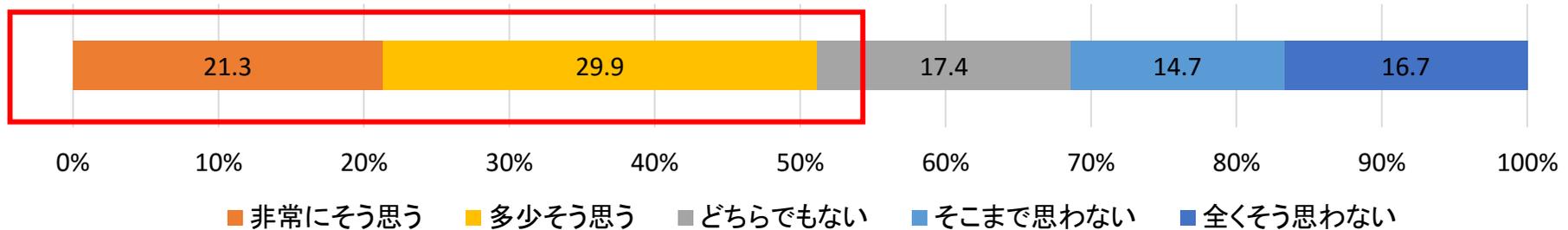


(出所)厚生労働省人口動態調査

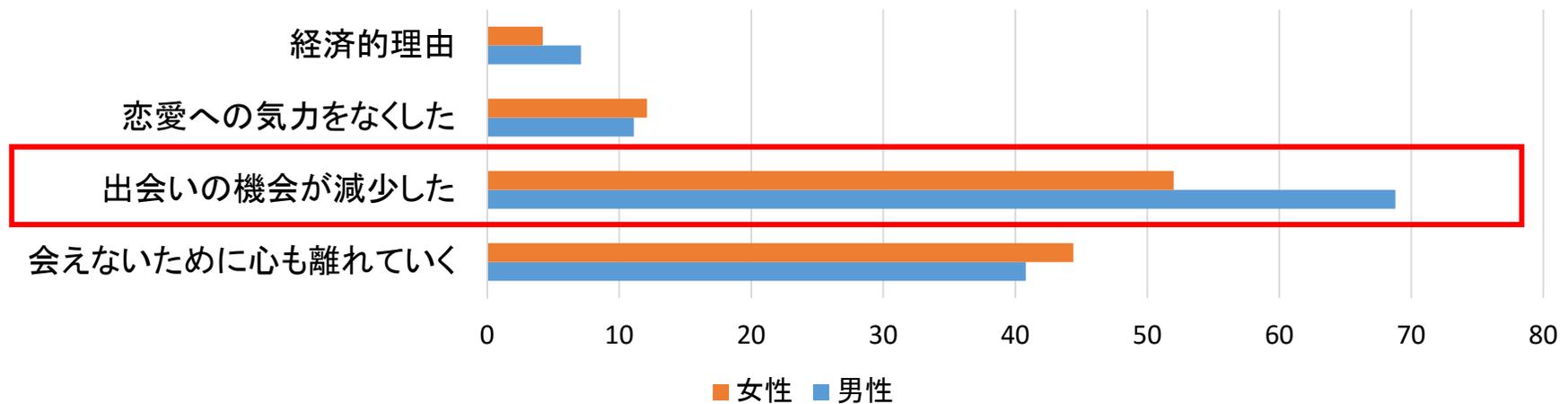
## 恋愛の価値観への影響

- ✓ 新型コロナウイルスの影響で恋愛のしづらさを感じた人は半数以上に及んだ。
- ✓ 理由としては「出会いの機会の減少」が最多となった。

新型コロナウイルスの影響で恋愛はしにくくなったか

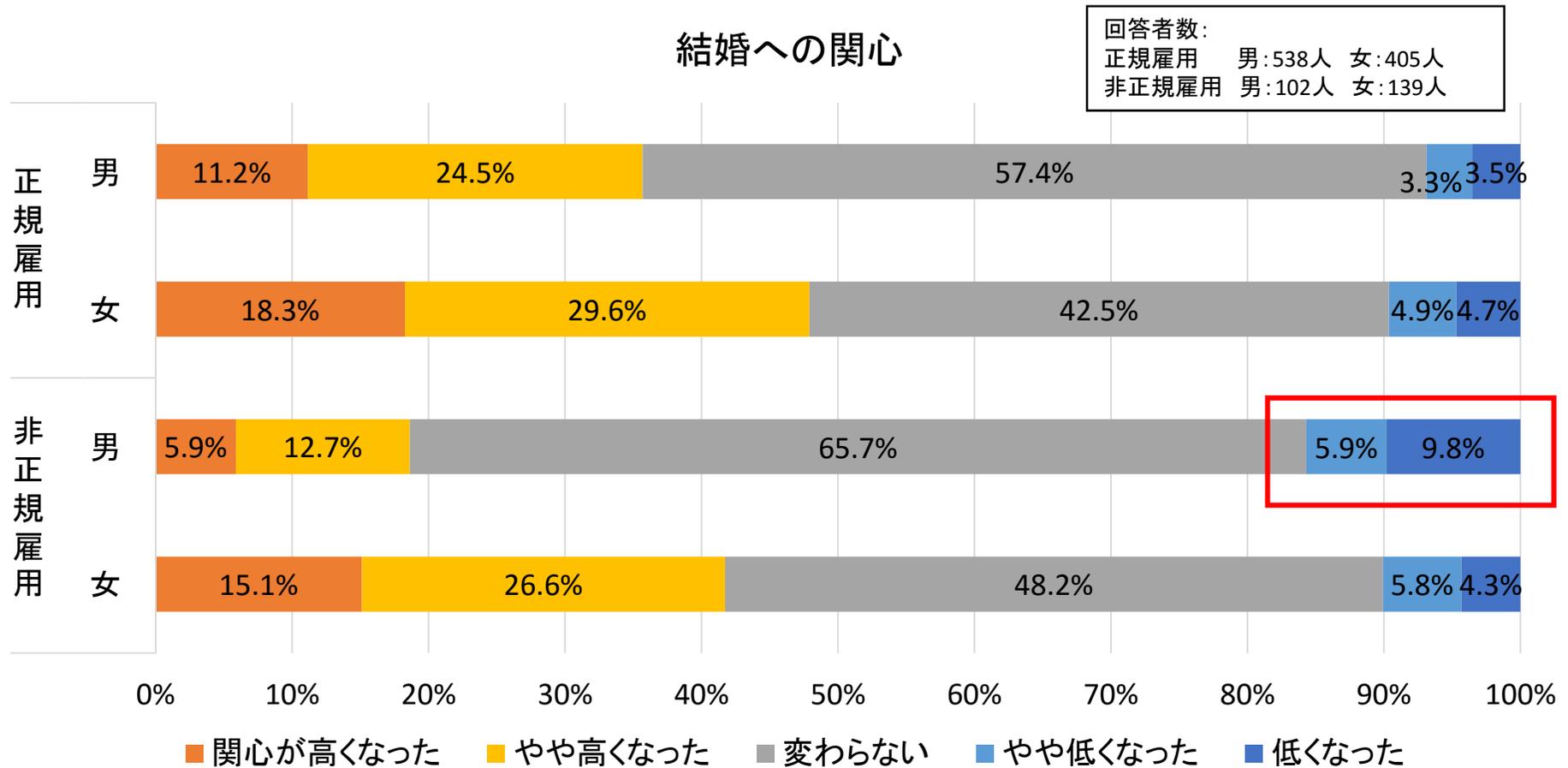


恋愛がしにくいと思う理由



(出所)株式会社テックアイエス  
 (注)10代、20代の男女対象、回収サンプル数:1,002、2020年11月21日~11月30日実施

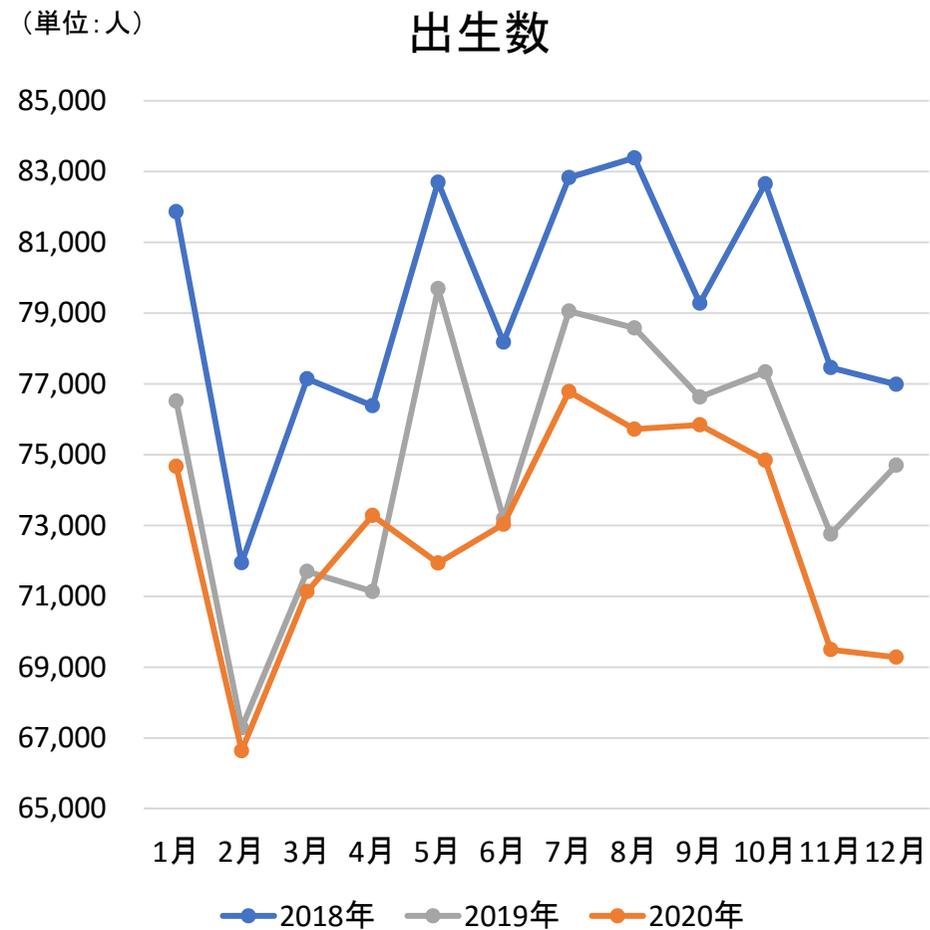
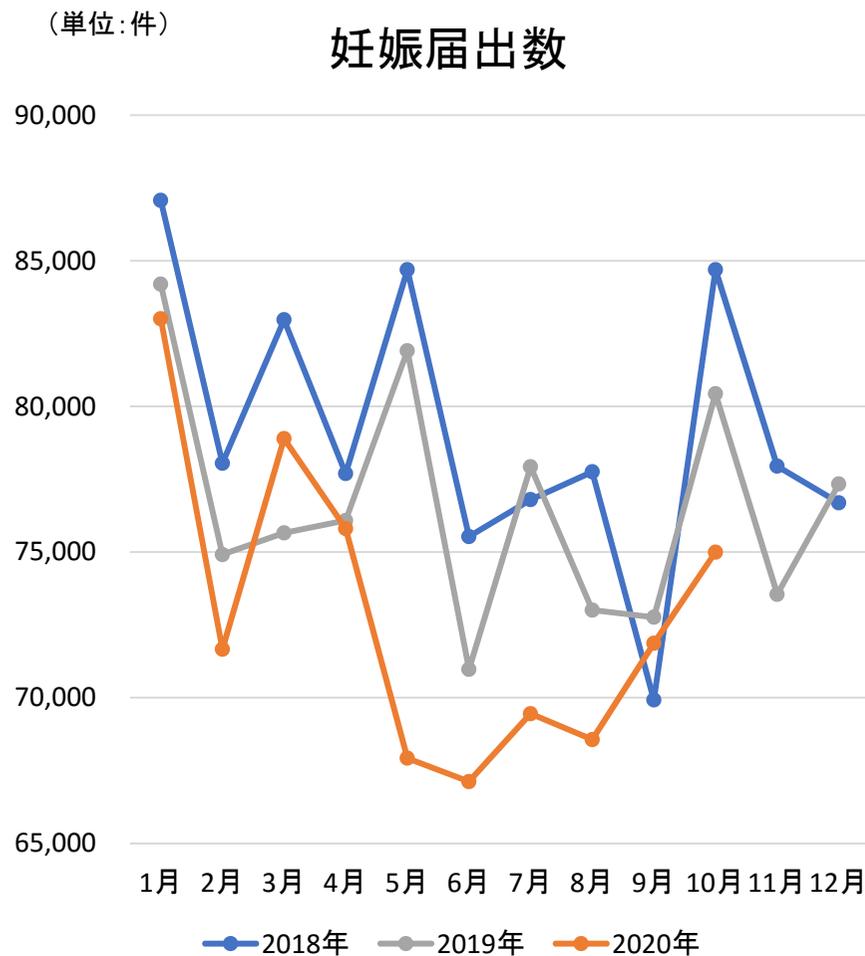
- ✓ 全体的には新型コロナウイルス流行前より関心が高くなっている。
- ✓ 男性より女性のほうがより関心が高くなっている。
- ✓ 非正規の男性について、正規雇用と比較して関心が低くなったと回答した割合が多い。



(注) 設問:「今回の感染症の影響下において、結婚への関心に変化はありましたか。」  
 (出所) 内閣府(2020)「第2回新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」個票データより作成。

出会い → 結婚 → 出産 → **日本における妊娠届出数・出生数の変化**

✓ 妊娠届出数が前年を大きく下回っており、2021年の出生数は70万人台に突入する可能性が高い。特に5月は前年比▲17.6%と2割近い減少となった。



(出所)厚生労働省人口動態調査

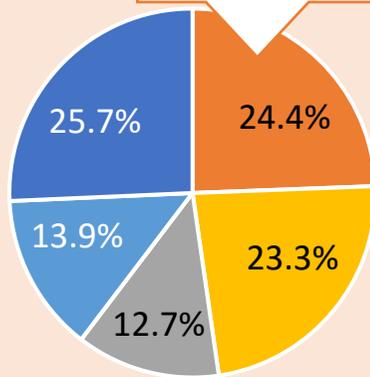
## 第2子以降妊娠への影響



✓ 新型コロナウイルス感染拡大により妊活や不妊治療を休止・延期したおよび妊娠を諦めた人は、第2子以降希望者の約3割にのぼる。

1. 新型コロナウイルス流行前、2人目以降の子供の妊娠を希望していたか

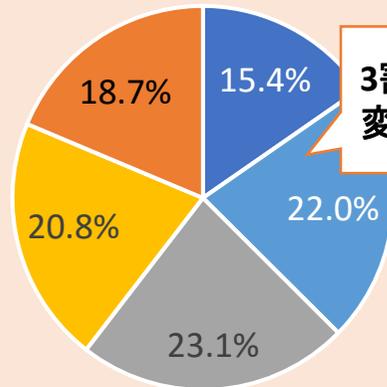
約半数が第2子を希望



- とても希望していた
- まあ希望していた
- どちらともいえない
- あまり希望していなかった
- 全く希望していなかった

2. 新型コロナウイルス感染拡大により、妊活の状況や、今後の妊娠への考えに変化があったか(問1で希望していたと回答した人を対象)

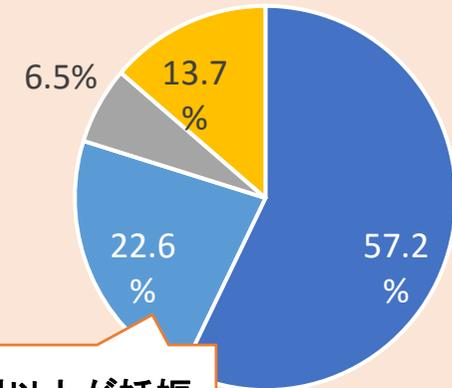
3割以上が変化あり



- とても変化があった
- まあ変化があった
- どちらともいえない
- あまり変化がなかった
- 全く変化がなかった

3. 妊活の状況や今後の妊娠への考えの変化について(問2で変化があったと回答した人を対象)

2割以上が妊娠をあきらめ



- 妊活や不妊治療を一旦休止した
- 妊娠を諦めることにした
- 妊活や不妊治療の開始を延期した
- その他

(出所)株式会社ベビーカレンダー調べ

(注)調査対象:株式会社ベビーカレンダーのサービスに会員登録している経産婦の方(2016年5月23日~2019年5月23日に出産)のうち、現在妊娠中ではない女性  
調査期間:2020年5月23日(土)~2020年5月24日(日) 調査件数:703件

## 不安の増加(年代別)

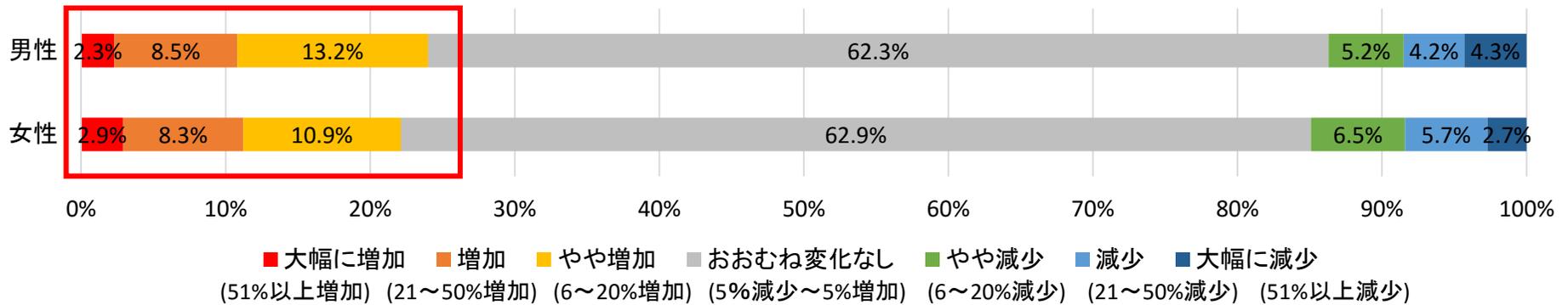
- ✓ 結婚や出産に関連性の高い20～30歳代に着目すると、感染症拡大前に比べて健康の他、将来全般や生活の維持・収入、仕事に不安が増しているという回答する割合が多い。

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代
健康	22.6%	22.5%	28.3%	30.4%
将来全般	36.9%	27.3%	24.7%	28.0%
生活の維持、収入	15.8%	29.0%	32.8%	36.2%
仕事	16.1%	28.0%	24.4%	27.9%
人間関係、社会との交流	20.8%	16.9%	15.7%	13.4%
親などの生活の維持、支援	8.0%	8.6%	13.4%	15.8%
子供の育児、教育	2.1%	8.0%	22.5%	18.2%
地球環境、地球規模の課題	8.3%	5.2%	5.6%	7.5%
結婚、家庭	5.1%	15.1%	13.0%	6.7%
不安はあるが増してはいない	15.2%	13.6%	15.8%	18.5%
不安はない	7.4%	6.9%	5.8%	5.5%

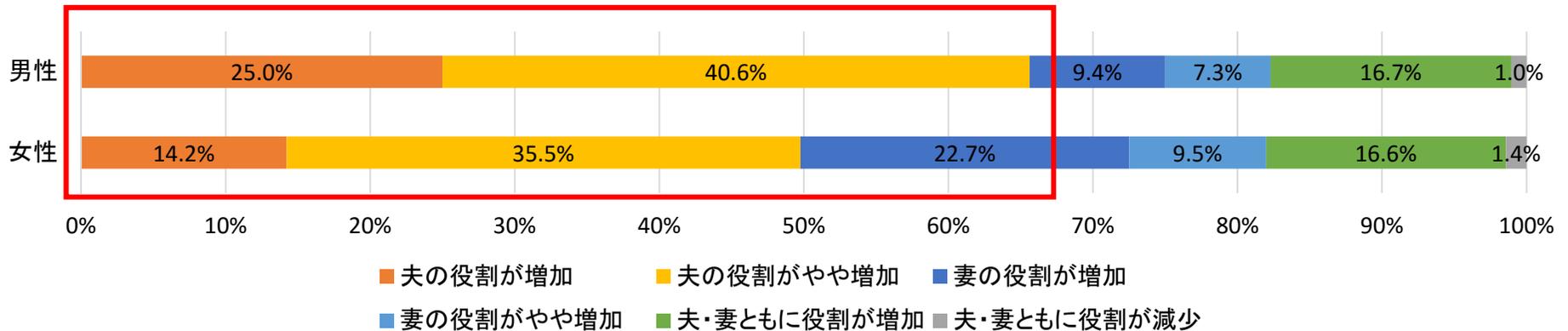
(注) 設問: 昨年12月(感染症拡大前)に比べて不安が増していることがありますか。ある場合はどのような不安か、あてはまるもの全てを回答してください。  
 (出所) 内閣府(2020)『新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査』個票データより作成。

- ✓ 家事・育児時間は男女ともに増加傾向が見られた。
- ✓ 家事・育児の役割分担について、夫の役割が増加している傾向である。

家事・育児時間の変化



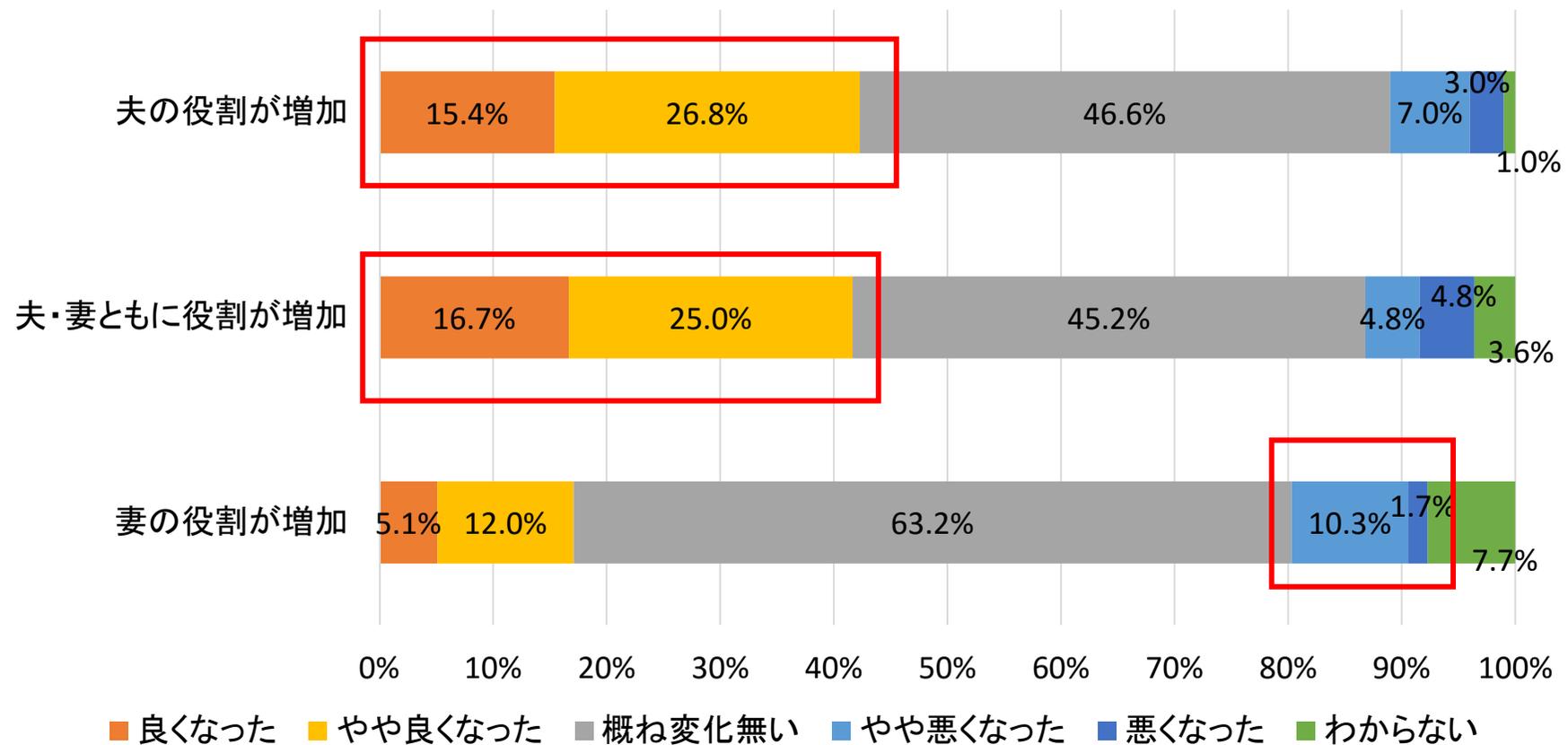
家事・育児の役割分担の変化



(注1) 設問: 昨年12月(感染症拡大前)と比べて、家事・育児に費やす時間はどのように変化しましたか。昨年12月の家事・育児時間を100とした場合の数字でお答えください。  
 (注2) 設問: 今回の感染症の影響下において、家事・育児に関する夫妻間の役割分担に変化がありましたか。  
 (出所) 内閣府新型コロナ意識調査

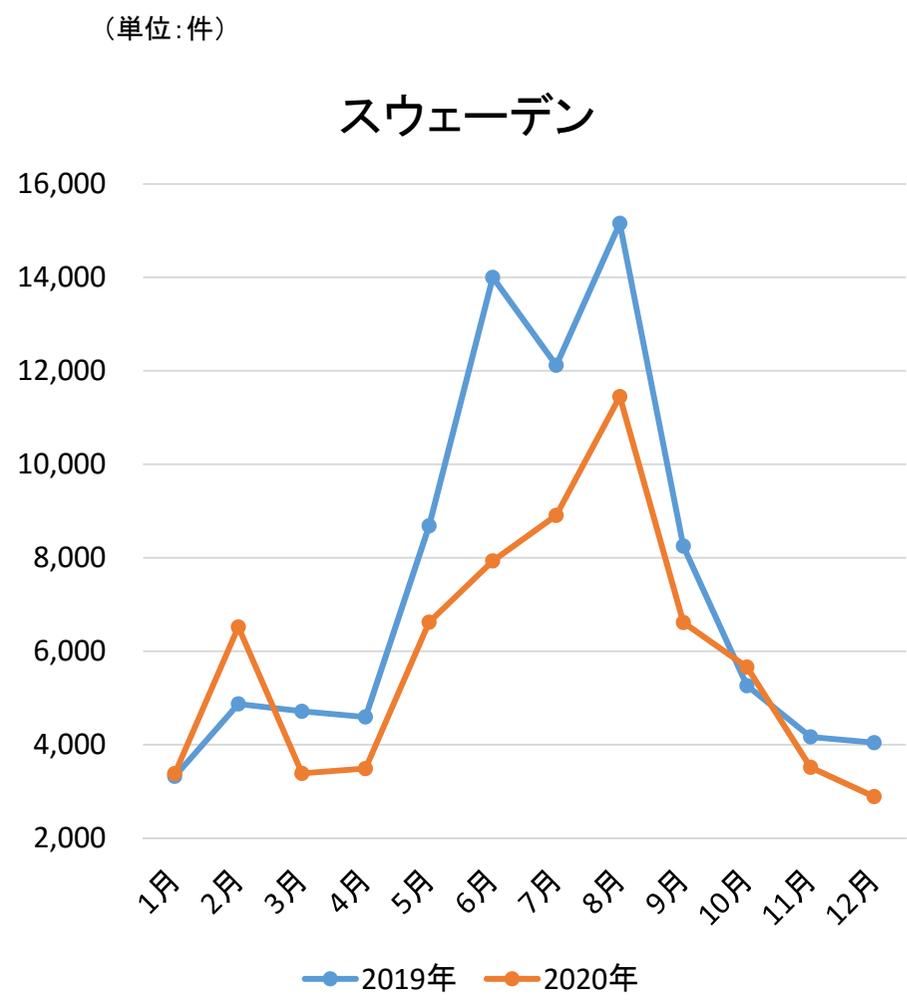
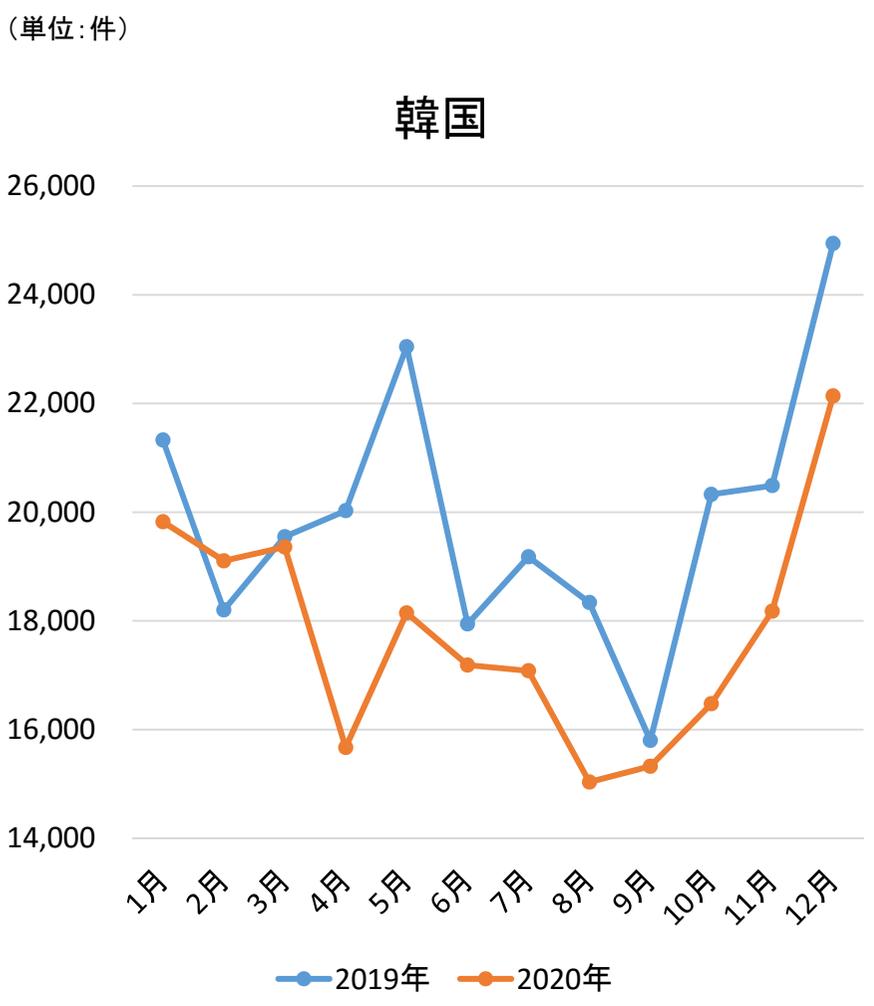
- ✓ 子育て世帯において、夫の役割が増加すると夫婦の関係が良くなったと回答する割合が多い。
- ✓ 反対に、妻の役割が増加すると夫婦関係が悪くなる傾向がある。

### 夫婦関係の変化



(注) 設問: 家事・育児に関する夫妻間の役割分担が変化して、夫妻の関係はどのように変化しましたか。  
 (出所) 内閣府(2020)『新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査』個票データより作成。

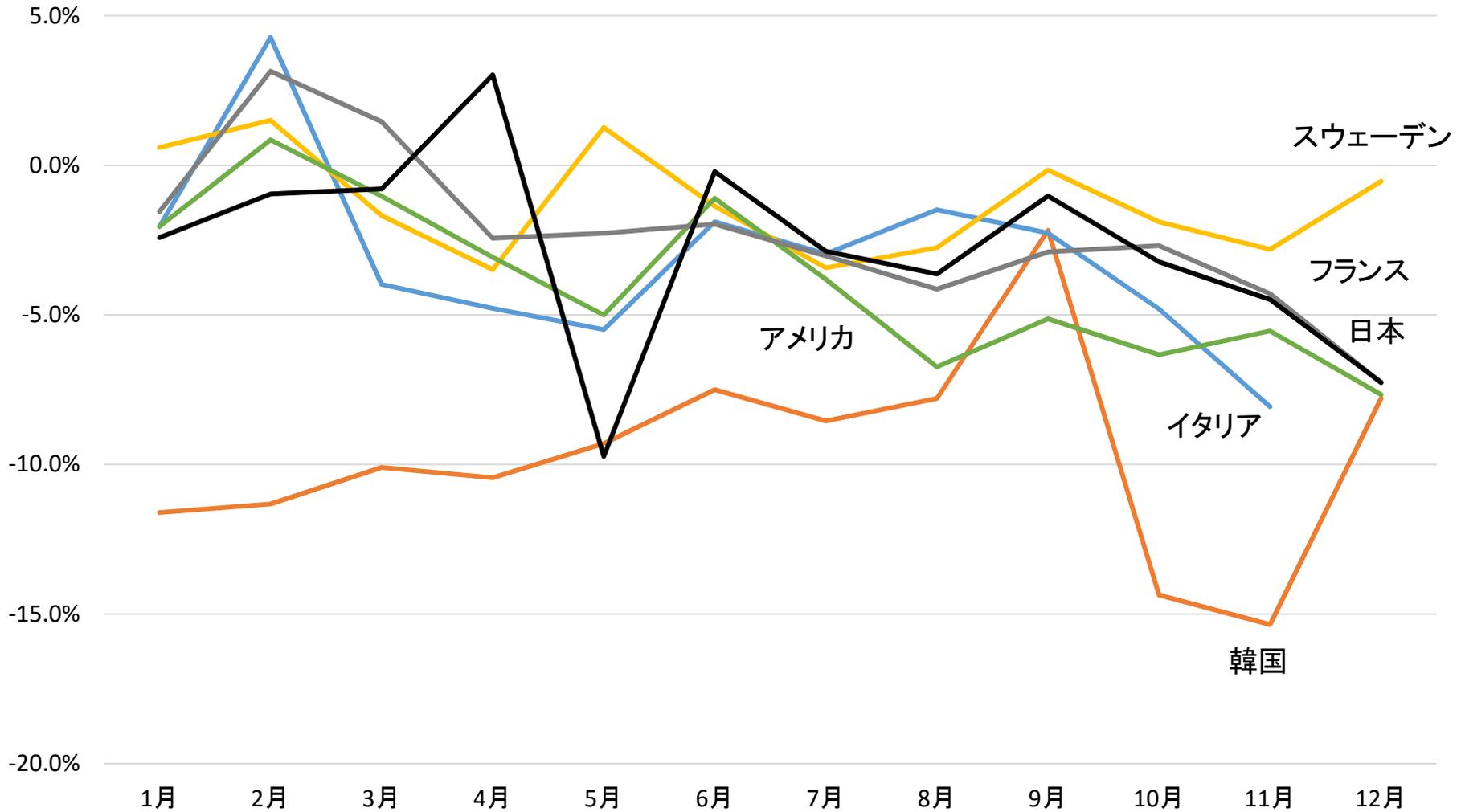
✓ 各国ともに婚姻数は4月頃に急落しており、コロナウイルス流行の影響を受けている。



(出所)大韓民国統計庁、スウェーデン統計局

✓ 2020年の出生数は、全体的に前年を下回っている。

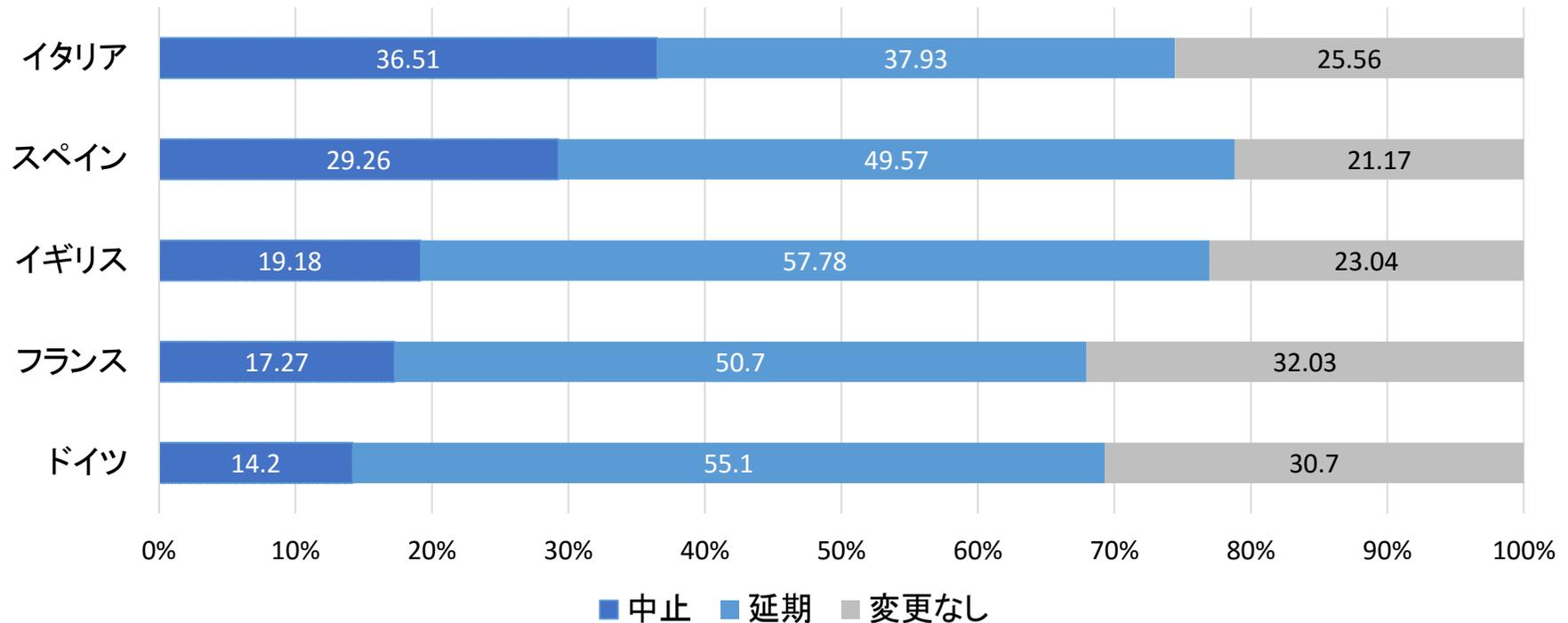
出生数の増減(前年比)



(出所) 大韓民国統計庁、スウェーデン統計局、フランス国立統計経済研究所、イタリア国家統計局、アメリカ全国保健統計センター

- ✓ イタリアは、「中止」の割合が多く、「延期」と回答する割合は他国と比較すると低い。
- ✓ 「中止」とした回答者の背景は国により異なり、イタリアは30歳未満で教育年数が少ない人に多く、ドイツはコロナ感染者が多い地域でやや多く、イギリスは今後の所得低下の可能性が高い人が多かった。

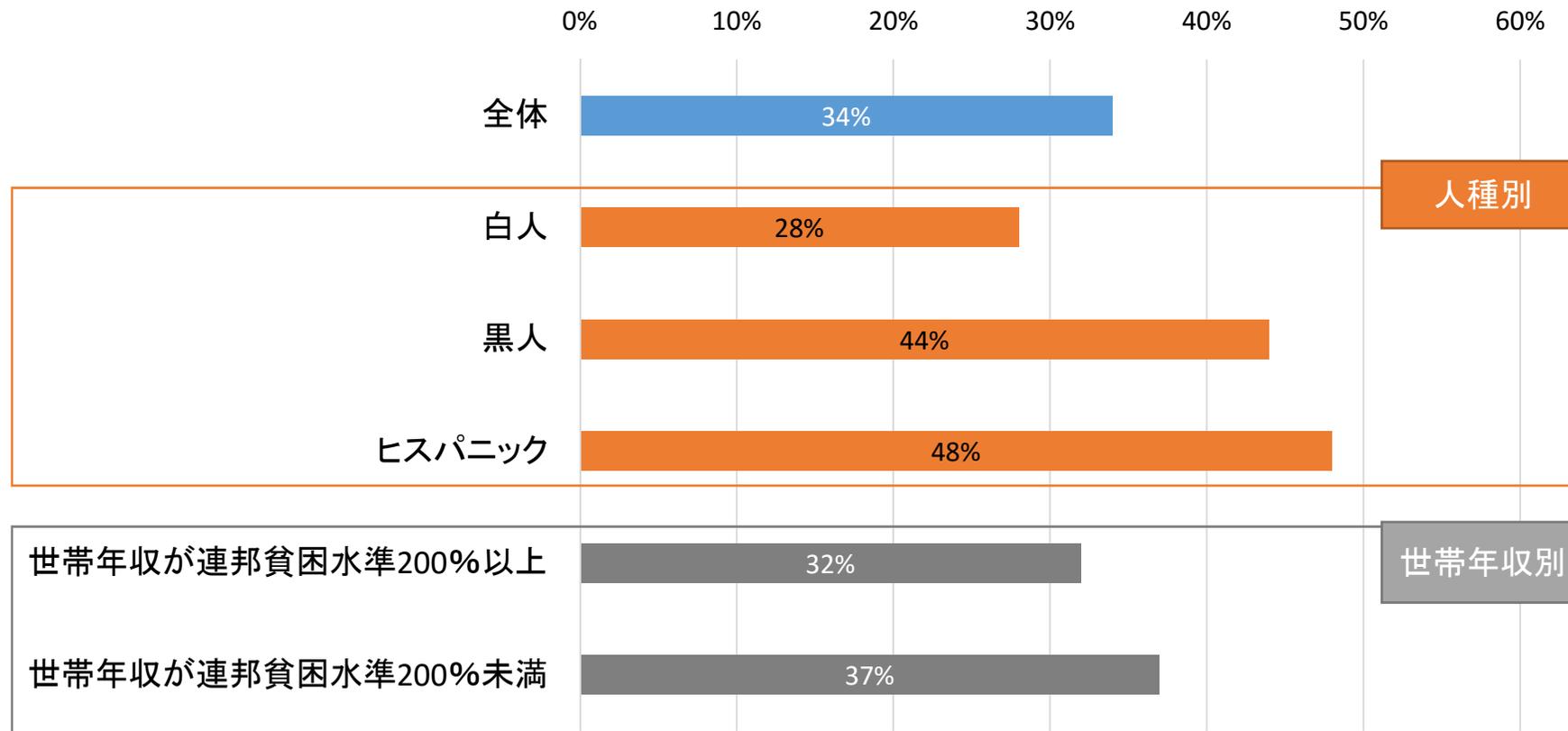
2020年1月時点で出産計画をしていた女性の計画への影響



(注)イタリア、フランス、ドイツ、スペイン、英国の女性(18~34歳)を対象に調査(2020年3月27日から4月7日)した“Rapporto giovani”を活用。  
 (出所) Luppi, Arpino, Rosina (2020) “The impact of COVID-19 on fertility plans in Italy, Germany, France, Spain and UK”,

- ✓ 全体では約3割と、ヨーロッパ諸国と比較すると割合は少ない。
- ✓ 白人女性よりも黒人女性やヒスパニック系女性のほうが影響を受ける割合が多い。
- ✓ 世帯年収が低いほうが影響を受ける割合が多い。

妊娠を遅らせるまたは子供の計画人数を減らすと回答した割合



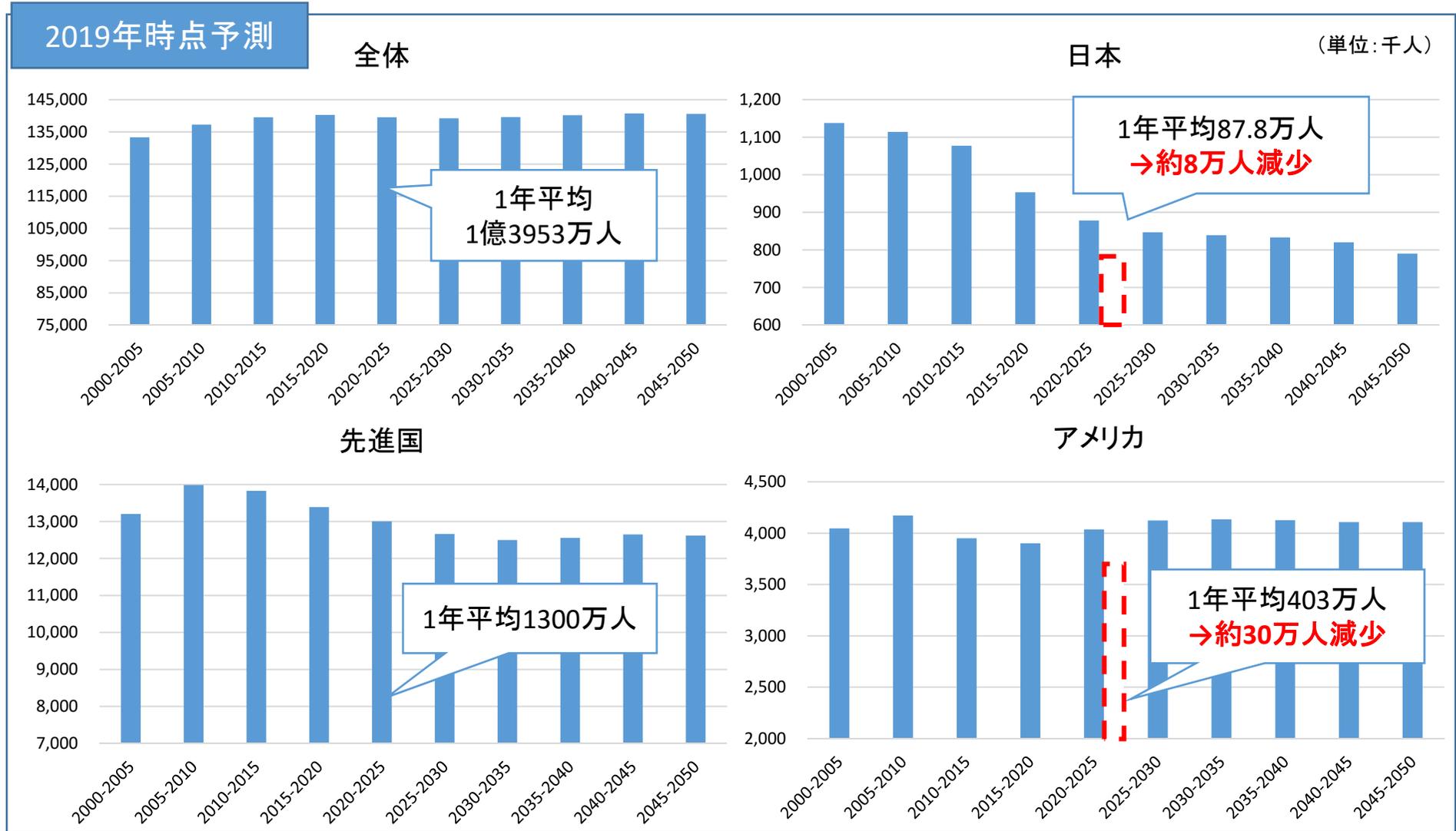
(注)アメリカの女性(18~49歳)を対象にアンケート(2020年4月30日から5月6日)を実施。

(注)連邦貧困水準(2020年度)200%1人世帯の場合:約270万円/年

(出所)Laura D. Lindberg, Alicia VandeVusse, Jennifer Mueller and Marielle Kirstein (2020)

“Early Impacts of the COVID-19 Pandemic: Findings from the 2020 Guttmacher Survey of Reproductive Health Experiences”

✓ 日本・アメリカにおける2021年の出生数は、2020年より約1割減少する見込み。他の先進国でも出生数の減少が見込まれる。影響が長期化すれば、さらに出生数が減少する恐れ。



- 新型コロナウイルスの拡大がこれまでの景気後退の影響と異なる点は、「人との接触を制限」せざるを得ないことである。

➡ 「人との接触の制限」に「経済環境の悪化」「健康への不安」等の不確実性が加わることで、「出会い」、「結婚」、「出産」の各ステージに今まで以上に悪影響が及んでいる。他の先進国においても同様の傾向がみられる。

- ステイホームの影響で家事・育児負担が増大している。

➡ 夫の家事・育児への協力が出産をはじめとした夫婦間の関係に大きく影響を与えている。

- 結婚への関心や出産計画に対する意識変化は雇用や所得によって異なる。

➡ 経済弱者のほうが結婚・出産いずれにおいても負の影響を大きく受けている。